

視覚障害をもつ日本語学習者への指導の工夫 —教授法と教材教具—

Pedagogy and Teaching Materials for Visually Impaired Japanese Learners

北川幸子⁺・辻野美穂子⁺⁺・古澤純⁺⁺

KITAGAWA Sachiko・TSUJINO Mihoko・FURUSAWA Jun

⁺京都外国語大学・⁺⁺京都外国語大学 大学院生

Kyoto University of Foreign Studies

〒615-8558 京都市右京区西院笠目町 6

s_kitagawa@kufs.ac.jp

Abstract: The purpose of this study is to find solutions to issues, of which three were encountered, with teaching Japanese to a blind student. The first is difficulty with visual information such as pictures. The second is the difficulty with discriminating and understanding words. The third is the difficulty with understanding the entire picture regarding information about tasks or questions. As for solutions, we used oral descriptions and realia for the first difficulty, we made example sentences for the second, and for the third, we described beforehand, how and in what order tasks were to be carried out.

キーワード：視覚障害、チュートリアル、外国語学習、教授法、教材教具

1. はじめに

近年、日本語教育現場の多様化やさまざまな背景をもつ学習者の増加にともなって、日本語教育に求められるものが多様化し、実践研究の場ではさまざまな試みの報告が見られるようになった。しかしながら、視覚障害をもつ学習者に対する日本語教育を扱ったものは管見の限り多くない。今回、筆者らは全盲の留学生に対して、授業の外から「チュートリアル」という形で日本語指導を一学期間行ってきた。今回の試みを振り返り、視覚障害をもつ学習者に対する日本語教育について、特に教授法と教材教具について考察する。

2. 先行研究

欧州の複数の組織が共同で行ったプロジェクト“GOOD PRACTICE FOR IMPROVING LANGUAGE LEARNING FOR VISUALLY IMPAIRED ADULT”では、視覚障害をもつ外国語学習者に対して指導する際、教師が考慮すべき点として、「視覚以外の感覚機能の使用」「文脈を意識した指導」「パラダイグマティックな思考を育てる指導」「一対一、または少人数での指導」などを挙げている。

田中 (2006)では視覚障害をもつ日本語学習者に対して、教材の電子ファイル化、視覚情報の口頭での説明、Eメールによる課題提出の許可、などの支援を行ったことを報告している。また、視覚障害をもつ日本人児童に対する教育を報告したものには、同音異義語などの理解の

ために漢字の構成要素の知識を活用した例として澤田ほか (2003)などがある。

3. 実践の概要

協定校からの留学生であるAさんに対して、1回90分のチュートリアルを週に4回、必修の授業に必要な予習、復習を中心に行った。

表-1 全盲留学生Aさん

日本語学習歴	約2年
学習スタイル	音声読み上げソフトを使用 (点字は不使用)
留学期間	2013年9月～2014年7月
履修科目における 使用教科書	『日本語中級 J301—基礎から中級へ—』『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 82 中級中期』など

4. 視覚障害をもつ日本語学習者への指導

4.1 学習上の困難点

チュートリアルでは、教科書などの紙媒体の教材をコンピューターの音声読み上げソフトで使用できるようローマ字打ちし、使用した。

今回の実践の中から主に以下の困難点が観察された。

- (a) イラストや図などで表されるものの理解
- (b) 語の弁別と理解
- (c) タスク全体像の把握

困難点(a)は、教科書などにあるイラストや写真、図表など、文字のようにそのまま読み上げることができないものの理解である。また、イラストなど以外にも、母語に訳しにくい語やオ

ノマトペのような感覚的に表されるものなどの理解は特に難しいようであった。

困難点(b)は、語の弁別と理解である。音声からのインプットで学習しているため、新しい語を学ぶ際、使われている漢字から意味を推測したり、既習語彙と関連づけて学習するなどのストラテジーを使うことができない。同音異義語に関しても、音だけで弁別することは難しく、文脈などからの推測に頼らざるをえない部分がある。

困難点(c)は、教科書のタスクやテストの問題などの全体像の把握である。例えば、全体像を俯瞰して見るができないために、読解問題を解く際には、読んだ後の問題が内容についての正誤問題であるのか、質問に文で答える形であるのか、などといったことを判断材料に読み方を変えると工夫ができない。また、試験問題などの、いわゆる穴埋め形式の問題は、正しい語を選び、形を正しく変え、文を完成させなければならない。このような全体を視覚的に捉え、試行錯誤を繰り返す作業には、複数のものを視覚的に同時に捉える、俯瞰する能力が有効である。しかし、音声の読み上げによって学ぶスタイルをとる場合、このような問題を解く際には記憶するという別の作業が必要となり、過度に負担がかかる。

4.2 指導の工夫

4.2.1 困難点(a)に対する指導の工夫

イラストや写真、図表などに関しては、基本的には口頭で描写説明を加えた。説明の際には、中心的意味や上位概念から説明し、応用して捉えられそうな既知の事物と結びつけて理解できるようにするなどの工夫を行った。ただし、説明が煩雑になりすぎるものについては、レオリア(花、果物、立体模型など)やレーザーライター^{注1}で描いた絵(子供が描いた絵、日本のお化けなど)を使用し、視覚以外の聴覚や触覚、嗅覚などを利用した理解を促すことで、バーバリズム^{注2}に偏ることがないように配慮した。

4.2.2 困難点(b)に対する指導の工夫

新しい語彙の導入にあたっては、その語が平仮名表記なのか、カタカナ表記なのか、あるいはどのような漢字の組み合わせになっているのかなど、表記や語構成についての説明も加えるようにした。また、導入する語彙の例文や補足説明を事前に準備し、その語がどのような文脈で使われることが多いのか、どのような語と共起するのか、類義語、対義語にはどのような

語があるのか、といった情報も与えるようにした。

4.2.3 困難点(c)に対する指導の工夫

教科書のタスク全体像の把握を助ける指導として、タスクを行う前に、これから何をどのような順序で行うのかといったことを説明し、作業手順の全体像を捉えられるようにした。問題形式に関しては、記憶することに負担がかかる穴埋め問題はできるだけ避け、選択問題や、前件から後件を考える形式の問題などに変える工夫を行った。

5. まとめと今後の課題

本稿では、視覚障害をもつ日本語学習者への指導の工夫として、特に、教授法および教材教具の工夫について述べた。今後はさらに、学習者からどのような点に難しさを感じるか、どのような指導方法が有効であったか等の聞き取りなどを通し、その妥当性、有効性について検討していく必要がある。また、今後、中級後半へとレベルアップしていくにつれ、難易度が高い文法項目や抽象的な概念を表す語彙が増えるであろうが、今回の指導方法で対応可能であるかについても考えていく必要がある。

注

- 1 表面作図器とも呼ばれる視覚障害者のための筆記具である。特殊なセロファンにペンで文字や図形を書き込むと、線が立体的に浮き上がり、指先で読みとることができる。
- 2 実体や具体的経験を伴わない、言葉による説明だけで、事物・事象や動作を理解してしまうこと。

参考文献

- 澤田真弓・香川邦生・千田耕基 (2003) 「全盲児童の漢字構成要素学習の有効性についての検討」『国立特殊教育総合研究所研究紀要』Vol.30, pp.51-60
- 田中亜子 (2006) 「視覚障害を持つ日本語学習者に対する読解学習支援の試み—全盲の留学生が受講した中級日本語読解授業の実践報告」『筑波大学留学生センター—日本語教育論集』Vol.21, pp.63-75
- 文部科学省 (2009) 『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編 (幼稚部・小学部・中学部)』教育出版
- PEDAGOGY AND LANGUAGE LEARNING FOR BLIND AND PARTIALLY SIGHTED ADULTS IN EUROPE (2008-2010) “GOOD PRACTICE FOR IMPROVING LANGUAGE LEARNING FOR VISUALLY IMPAIRED ADULT”
http://www.euroblind.org/media/languages/Languages_EN.pdf (閲覧日 2014/02/01)